

市町村子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた
利用ニーズ把握のための調査報告書
[概要版]

平成 26 年 3 月

鎌倉市

I 調査の概要

1 調査の目的

急速な少子化の進行、地域を取り巻く環境の変化のなかで、子どもと子どもを養育している方に必要な支援を行い、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができるような社会を実現することを目的として国は「子ども・子育て支援法」を制定しました。

同法では市町村に対して教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保等を円滑に実施するために、「子ども・子育て支援事業計画」を定めることを求めています。

本市では子ども・子育てを支援するために、平成 22 年度に策定した「鎌倉市次世代育成きらきらプラン（後期計画）」に基づき、様々な施策を講じてきました。この計画は平成 26 年度までを計画期間としており、新たに体系的な子ども・子育て支援施策を展開していかななくてはならないため、本市としても平成 27 年度までに「子ども・子育て支援事業計画」を策定することになっています。

その基礎資料として、本市では「子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査」を平成 25 年 10 月に実施しました。

本報告書概要版は、その調査結果の要点をまとめたものです。

2 調査対象及び方法

① 抽出対象

鎌倉市にお住まいで、0 歳児から 5 歳児までを子育て中の家庭

② 抽出数

4,200 件

③ 調査票の配布・回収方法

郵送配布・郵送回収

④ 調査実施時期

平成 25 年 10 月 8 日（火）～平成 25 年 11 月 30 日（土）

3 回収状況

配布数	4,200
回収数	2,558（内、有効票 2,553 無効票 5）

回収率	60.9%
-----	-------

4 留意事項

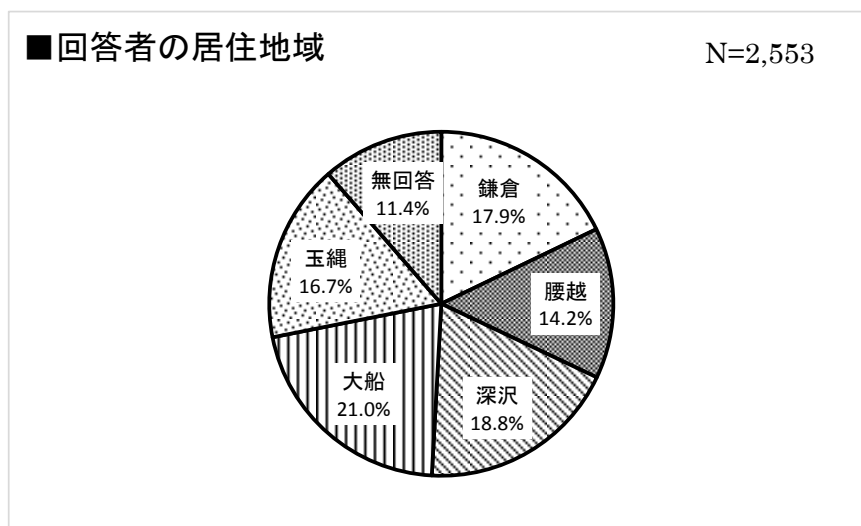
- 構成比(%)については、端数計算の関係上、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答の質問は、集計結果の合計が100%を超えることがあります。

Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

1) 回答者の居住地

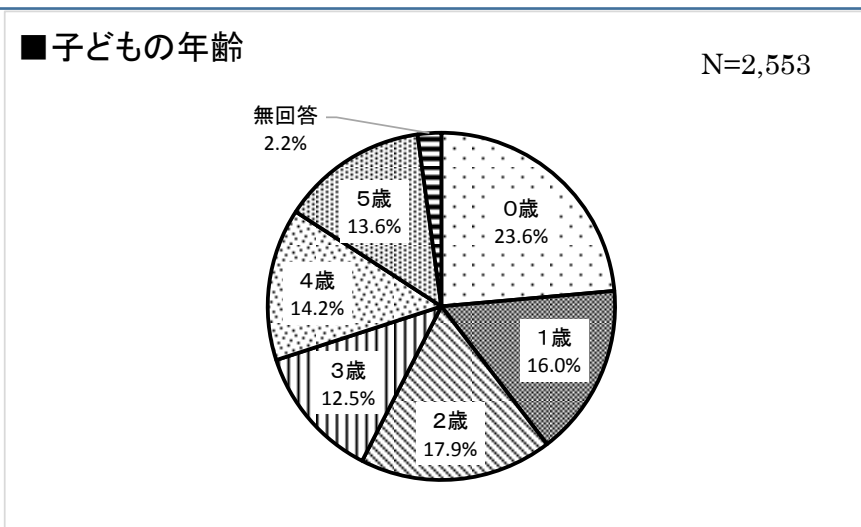
回答者の居住地をみると、「大船」が21.0%で最も多く、「深沢」が18.8%、以下、「鎌倉」が17.9%、「玉縄」が16.7%で続きます。(問1)



2) お子さんご家族の状況について

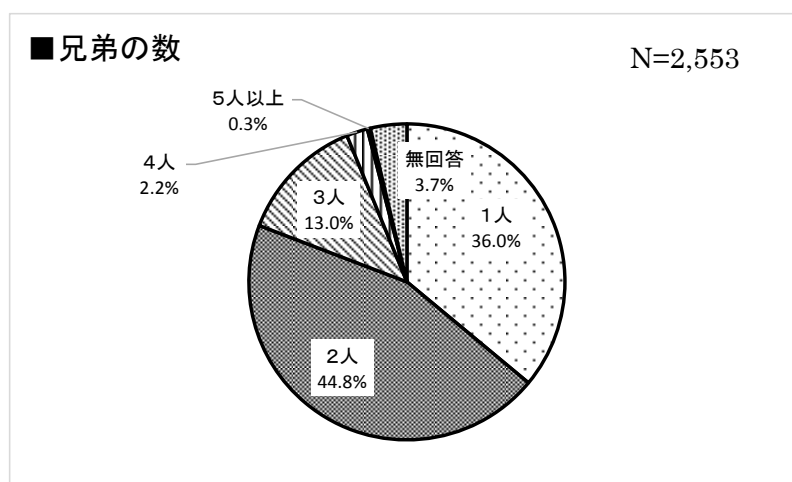
(1) 子どもの年齢

子どもの年齢は、「0歳」が23.6%で最も多く、次いで、「2歳」が17.9%、以下、「1歳」16.0%、「4歳」14.2%と続きます。(問2)



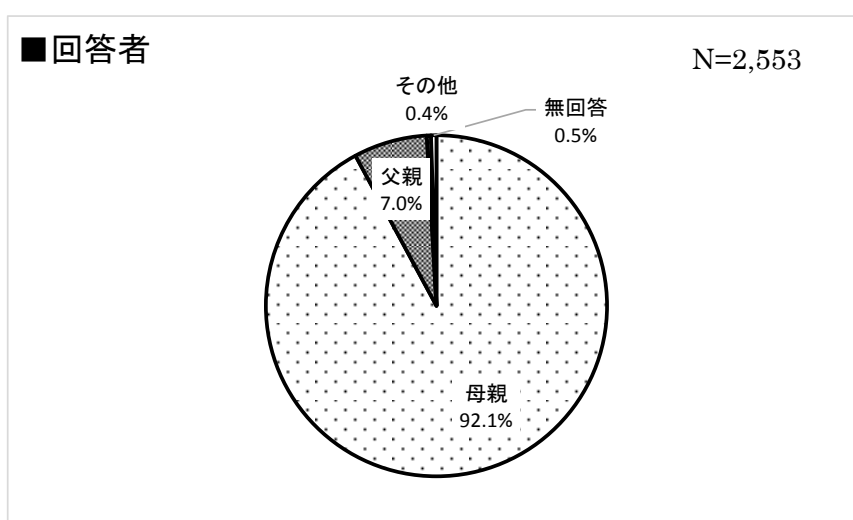
(2) 兄弟の数

兄弟の数は、「2人」が44.8%で最も多く、次いで、「1人」が36.0%、以下、「3人」13.0%、「4人」2.2%と続きます。また、末子の年齢については、0歳が19%で最も多く、2歳が14.0%、1歳が13.3%でした。(問3)



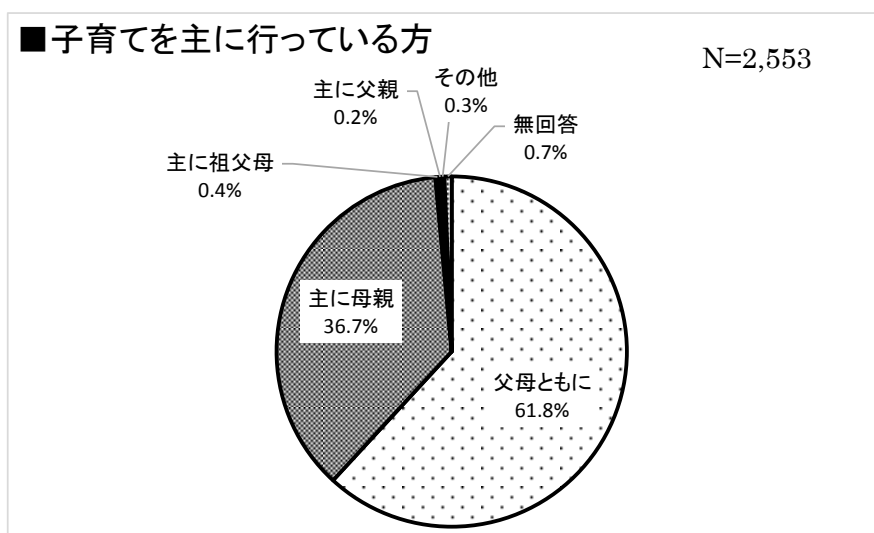
(3) 回答者

回答者は、「母親」が92.1%で最も多く、次いで「父親」が7.0%、以下、「その他」0.4%、「無回答」0.5%と続きます。また、配偶関係については、「配偶者がいる」が96.0%、「配偶者はいない」が3.3%となっています。(問4)



(4) 子育てを主に行っている方

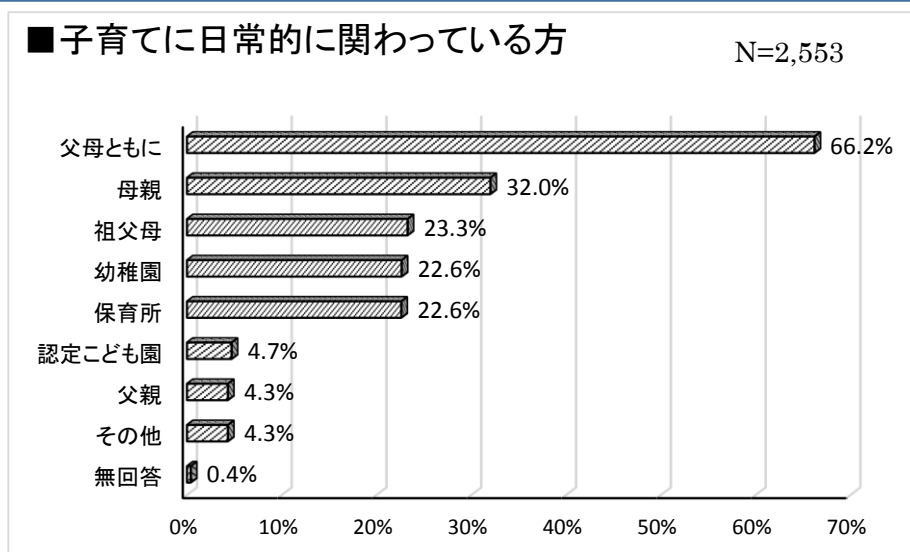
子育てを主に行っている方をみると、「父母ともに」が61.8%で最も多く、次いで、「主に母親」が36.7%、以下、「主に祖父母」0.4%、「その他」0.3%となっています。（問6）



2 子どもの育ちをめぐる環境について

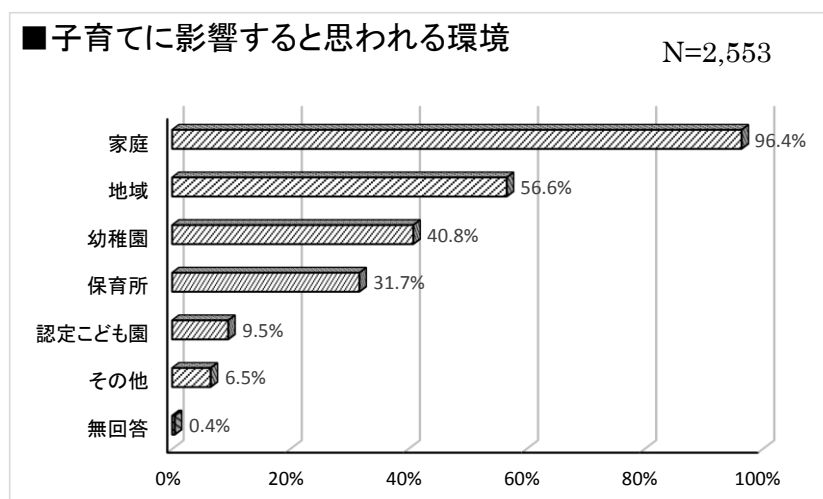
1) 子育てに日常的にかかわっている方

子育てに日常的に関わっている方は、「父母ともに」が66.2%で最も多く、次いで、「母親」が32.0%、以下、「祖父母」が23.3%、「幼稚園」及び「保育所」が22.6%となっています。（問7）



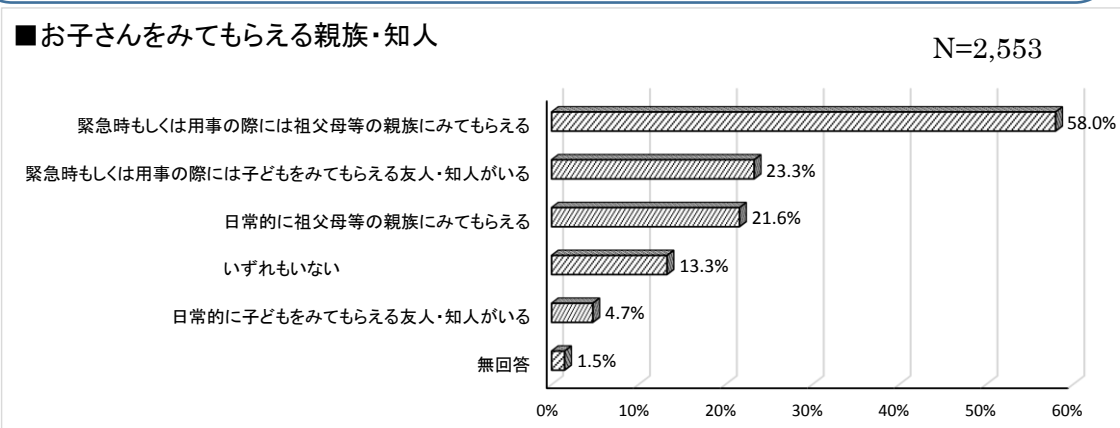
2) 日頃、子育てに影響すると思われる環境

子育てに影響すると思われる環境としては、「家庭」が96.4%で最も多く、次いで、「地域」が56.6%、以下、「幼稚園」40.8%、「保育所」31.7%でした。ほとんどの方が、「家庭」の子育てに与える影響は大きいとしています。(問8)



3) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が58.0%で最も多く、次いで、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が23.3%でした。一方、「いずれもない」との回答は13.3%でした。(問9)



4) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況

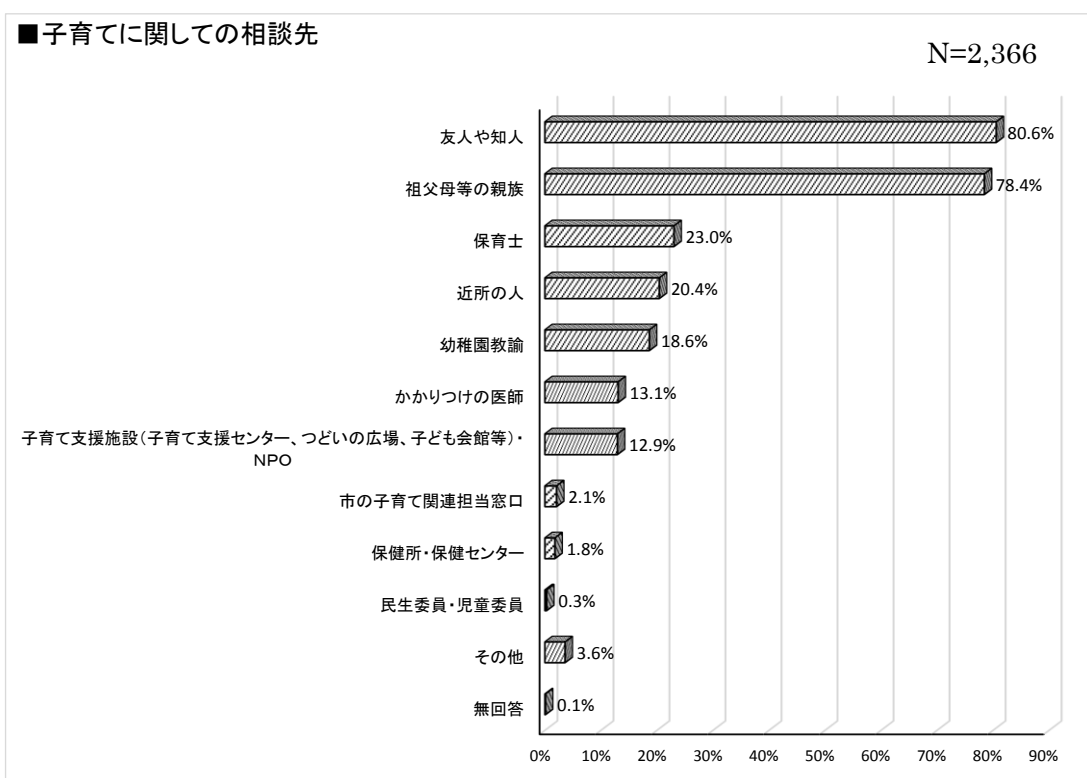
親族に子どもをみてもらっている状況については、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」との回答が最も多く、46.0%となっています。(問 9-1)

5) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況

友人・知人に子どもをみてもらっている状況については、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が43.2%で最も多く、次いで、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が30.0%となっています。(問 9-2)

6) 子育てに関する相談先

子育てに関する相談先をみると、「友人や知人」が80.6%で最も多く、次いで、「祖父母等の親族」が78.4%、「保育士」23.0%、「近所の人」20.4%と続きます。8割の方が知人・友人・親族に子育ての相談をしています。(問 10-1)



7) 子育てをする上で、必要な周囲（身近な人、行政担当者など）からのサポート

子育てをする上で周囲からどんなサポートがあればよいと思うか、という間に1022件の自由記述が寄せられました。記述内容をテーマごとに類型化すると、最も多いのは『一時預かり』に関連した記述で、それに、『相談事業』に関する記述、『病児・病後児保育』についての記述が続いていました。（複数の内容が含まれているものは、重複して集計しています。）（問 11）

『一時預かり』に関する記述	224件
自分が病気や健診時、上の子の学校行事の時に、何時間か子どもを預けたいので、一時保育を充実させてほしい。数時間気軽に預けられる場所がほしい、等。	
『相談事業』に関する記述	135件
気軽に話ができる場を設けてほしい、電話やメールで相談したい、身近に相談できる人・場所があったら安心である、定期的な訪問タイプの相談事業がほしい、等。	
『病児・病後児保育』に関する記述	42件
病児保育・病後児保育ができる場所を増やしてほしい。共働きなので子どもが病気の時夜まで見てほしい、病後児保育は手続きが大変で使えない、急な病気の時の対応を充実させてほしい、等。	

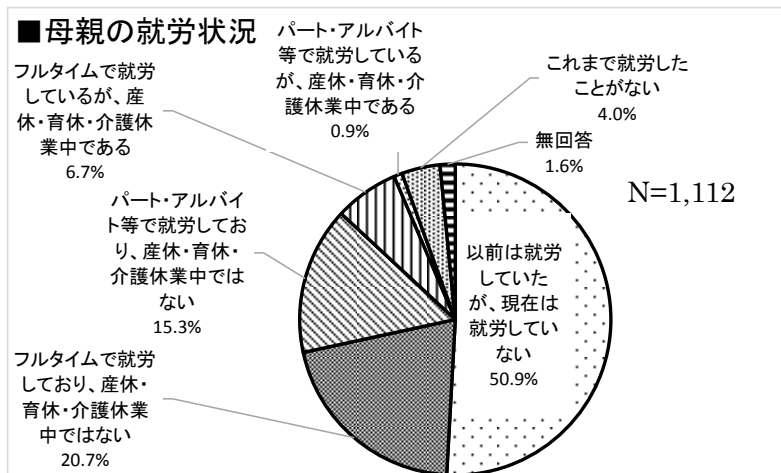
3 子どもの保護者の就労状況

1) 母親の就労状況

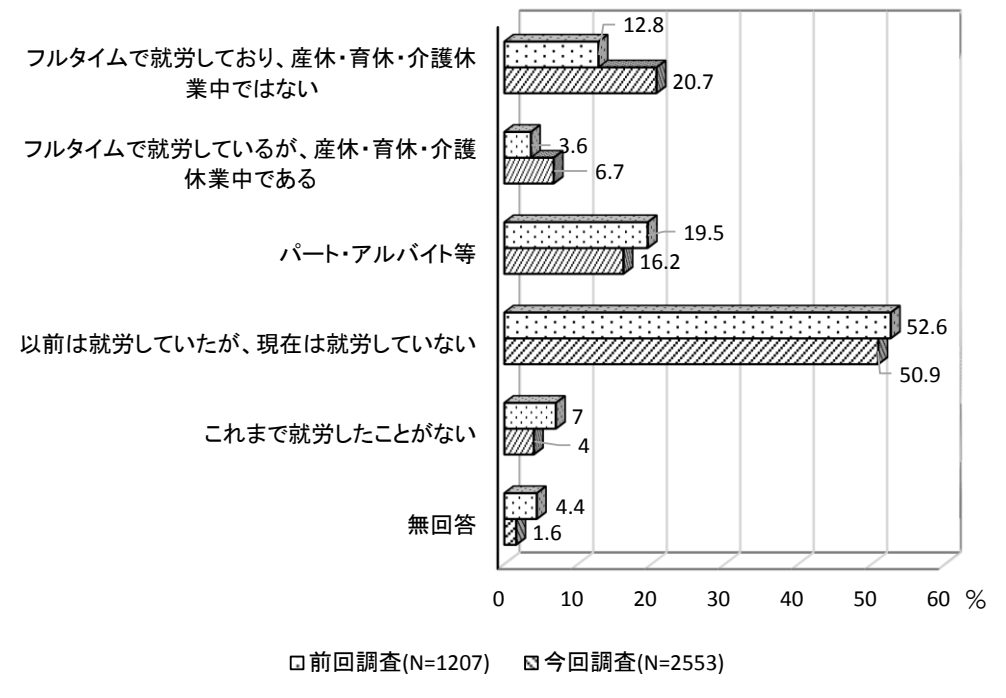
母親の就労状況は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が50.9%で最も多く、次いで、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が20.7%でした。

前回調査（平成21年鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査）と比較すると、フルタイムで働いている方が、16.4%から27.4%に大きく増加していることがわかります。

一方、パート・アルバイトで働いている方は、19.5%から16.2%に、以前は就労していたが現在は就労していない方は、52.6%から50.9%に、それぞれ減少しています。（問 12(1)）



■ 母親の就労状況(前回調査との比較)



※前回調査データは、「鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査報告書」(平成 21 年)より。

2) 母親の就労時間

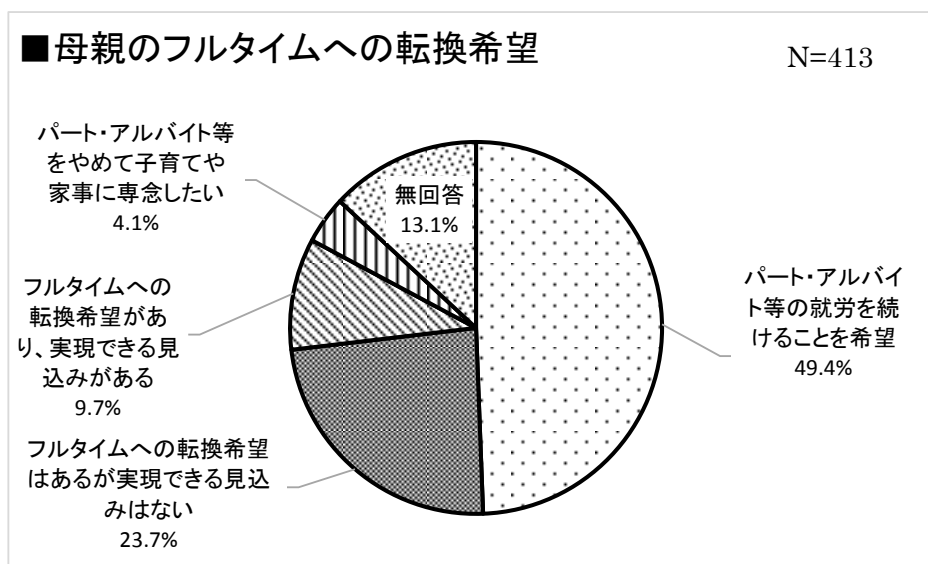
母親の1週あたりの就労日数は、「5日」が最も多く63.3%、1日あたりの就労時間（残業時間を含む）は、「8時間台」が最も多く30.3%となっています。（問12(1)-1）

3) 母親の出勤時刻及び帰宅時刻

母親が仕事で家を出る時間は、「8時台」が最も多く44.2%、仕事からの帰宅時間は、「18時台」が最も多く31.7%となっています。（問12(1)-2）

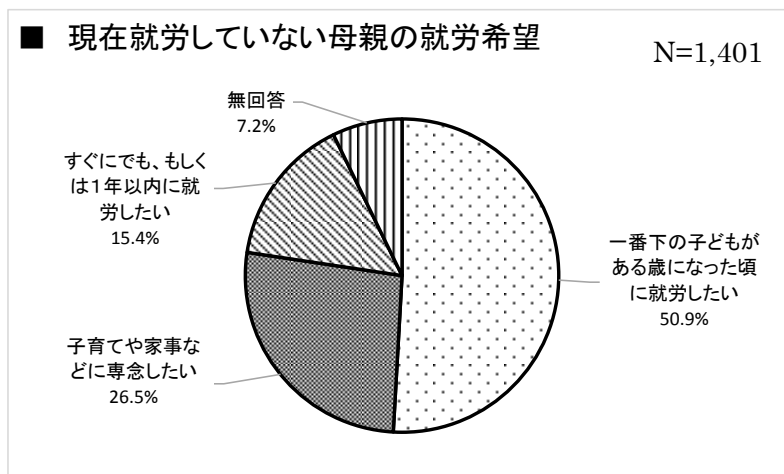
4) パート・アルバイトで就労している母親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイトで就労している方のフルタイムへの転換希望については、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が49.4%で最も多く、「フルタイムへの転換希望はあるが実現できる見込みはない」が23.7%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が9.7%でした。およそ半数の方が、パート・アルバイトのまま働きたいと回答しています。（問13）



5) 現在就労していない母親の就労希望

現在就労していない母親の就労希望については、「一番下の子どもがある歳になった頃に就労したい」との回答が50.9%で最も多く、次いで、「子育てや家事などに専念したい」との回答が26.5%となっています。(問 14)

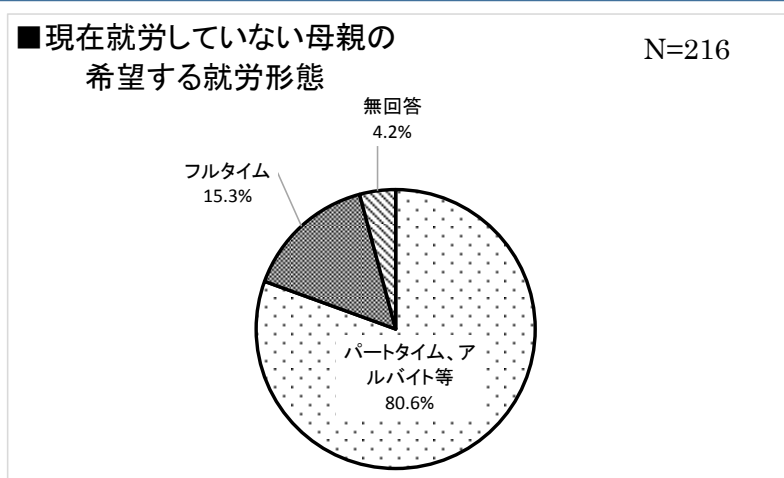


6) 子どもが何歳になった頃に就労したいか、及び希望する雇用形態

一番下の子どもが何歳になった頃に就労したいかについては、「7歳」が28.5%で最も多く、次いで、「10歳以上」が13.7%でした。

希望する就労形態としては、「パートタイム、アルバイト等」が80.6%、「フルタイム」が15.3%となっています。

就労していない母親のおよそ8割が、時間的拘束が少なく子育てと両立しやすいと思われるパートタイムやアルバイト等の働き方を希望すると回答しています。(問 14)



4 平日の定期的な教育・保育事業の利用について

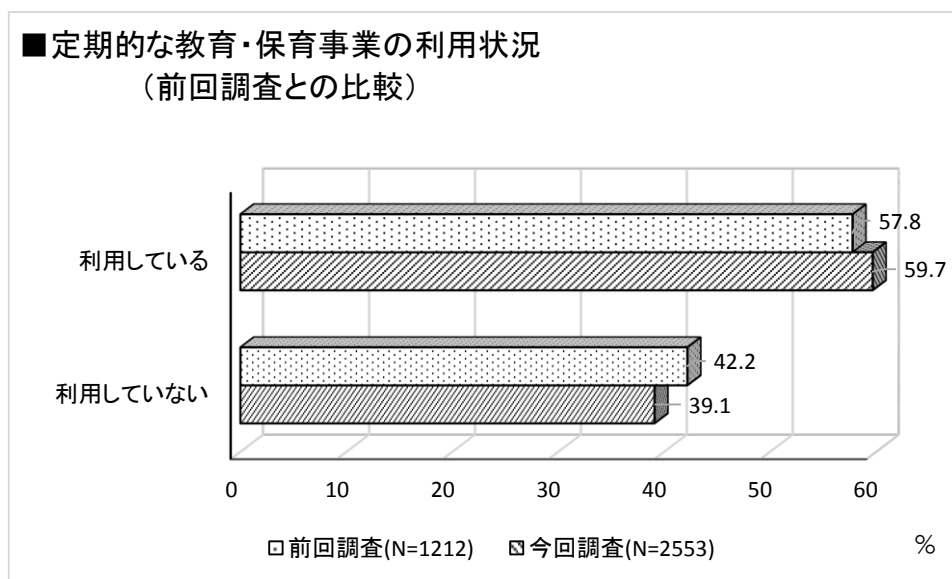
1) 定期的な教育・保育事業の利用状況

定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が59.7%、「利用していない」が39.1%となっています。

前回調査と比較すると、定期的な教育・保育事業を利用している方は、57.8%から59.7%に増加していることがわかります。

また、居住地域別に利用状況を比較すると、すべての地区でおよそ6割の方が定期的な教育・保育事業を利用しています。「腰越地区」の利用者は65.2%と最も高くなっています。

さらに、子どもの年齢別に利用状況を比較すると、2歳までは半数の方が自分で子育てをし、3歳になると9割を超える方が定期的な教育・保育事業を利用するようになり、5歳になるとほぼすべての方が定期的な教育・保育事業を利用していることがわかります。(問 15)



※前回調査データは、「鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査報告書」(平成 21 年)より。

◎居住地区・子どもの年齢からみた定期的な教育・保育事業の利用状況

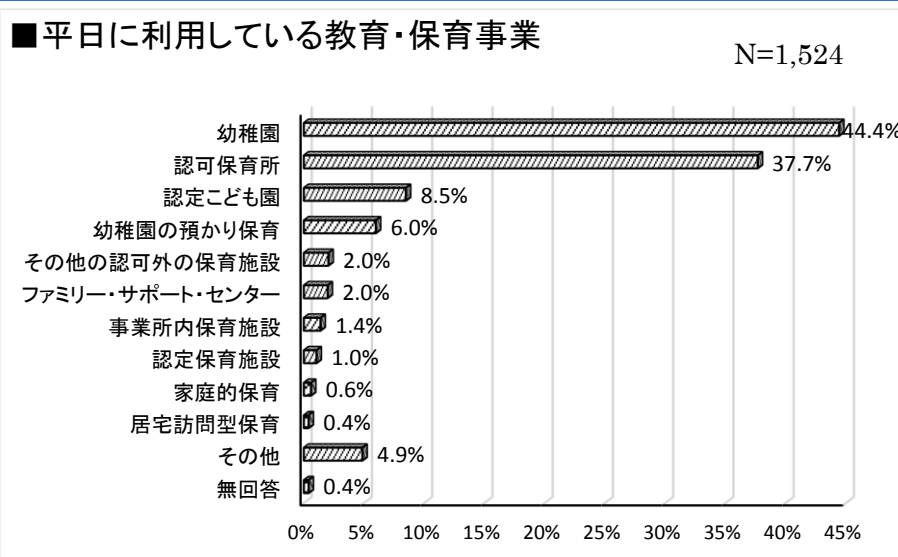
設問		全体	利用して いる	利用してい ない	無回答
全体		2,553	1,524	999	30
		100.0	59.7	39.1	1.2
地域別	鎌倉	456	268	182	6
		100.0	58.8	39.9	1.3
	腰越	362	236	124	2
		100.0	65.2	34.3	0.6
	深沢	481	285	190	6
		100.0	59.3	39.5	1.2
	大船	536	305	224	7
		100.0	56.9	41.8	1.3
年齢別	玉縄	427	252	170	5
		100.0	59.0	39.8	1.2
	無回答	291	178	109	4
		100.0	61.2	37.5	1.4
	0歳	602	113	481	8
		100.0	18.8	79.9	1.3
	1歳	409	147	252	10
		100.0	35.9	61.6	2.4
年齢別	2歳	458	237	218	3
		100.0	51.7	47.6	0.7
	3歳	318	290	25	3
		100.0	91.2	7.9	0.9
	4歳	362	357	3	2
		100.0	98.6	0.8	0.6
	5歳	348	345	1	2
		100.0	99.1	0.3	0.6
年齢別	無回答	56	35	19	2
		100.0	62.5	33.9	3.6

上段：回答数
下段：回答率

2) 定期的な教育・保育事業別の利用状況

定期的な教育・保育事業別の利用状況をみると、「幼稚園」が44.4%で最も多く、次いで、「認可保育所」が37.7%、以下、「認定こども園」8.5%、「幼稚園の預かり保育」6.0%と続きます。

また、認可保育所等保育に係る事業（「認可保育所」・「家庭的保育」・「事業所内保育施設」・「認定保育施設」・「その他の認可外の保育施設」・「居宅訪問型保育」）をひとつにまとめると43.1%となり、4割を超える方が保育事業を利用していることがわかります。（問 15-1）

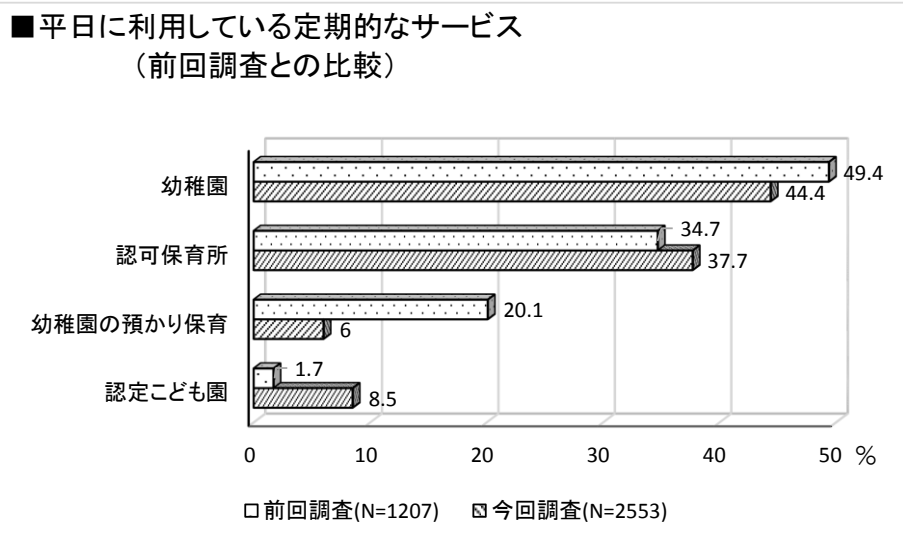


平日に利用している定期的な教育・保育事業を、前回調査（平成21年鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査）と比較すると、幼稚園利用者は49.4%から44.4%に減少しています。

一方、認可保育所利用者は、34.7%から37.7%に増加しています。

また、認定こども園の利用者は、1.7%から8.5%へと大幅に増加しています。

（問 15-1）



※前回調査データは、「鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査報告書」(平成 21 年)より。

3) 定期的な教育・保育事業別の利用日数および利用時間

1 週当たりの利用日数は、「5日」が最も多く 83.6%、1 日当たりの利用時間は、「5時間台」が最も多く 34.8%でした。利用開始時間は、「9時台」が最も多く 57.7%、利用終了時間は、「14時台」が 36.6%でした。(問 15-2)

4) 定期的な教育・保育事業別の利用意向

定期的な教育・保育事業の 1 週当たりの利用希望日数は、「5日」が最も多く 65.7%、1 日当たりの利用時間は、「9時間以上」が最も多く 27.2%でした。

利用希望開始時間は、「9時台」が 44.2%で最も多く、次いで、「8時台」が 22.7%、以下、「7時台」6.0%、「10時台」2.3%と続きます。7時台からの開始で、8割弱の方のニーズに応えることができます。

利用希望終了時間は、「17時台」が 15.0%で最も多く、次いで、「15時台」が 14.2%、以下、「16時台」13.3%、「18時台」13.0%の順となっています。19時台までの利用で、7割以上の方のニーズに応えることができます。(問 15-2(2))

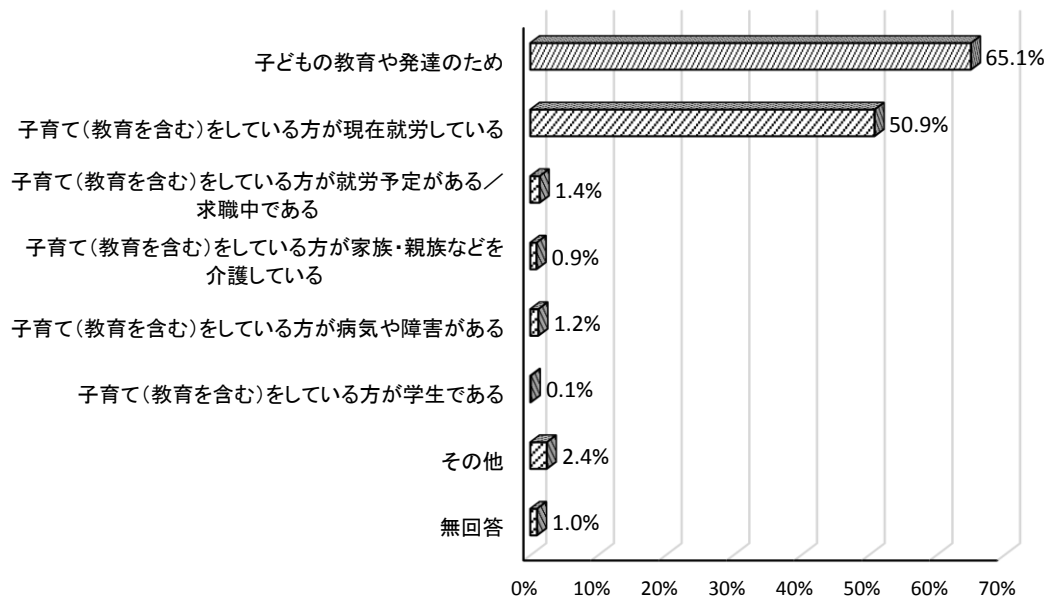
定期的な教育・保育事業を利用したい場所は、「鎌倉市内」が 92.7%となっています。(問 15-3)

5) 定期的な教育・保育事業を利用している理由・利用していない理由

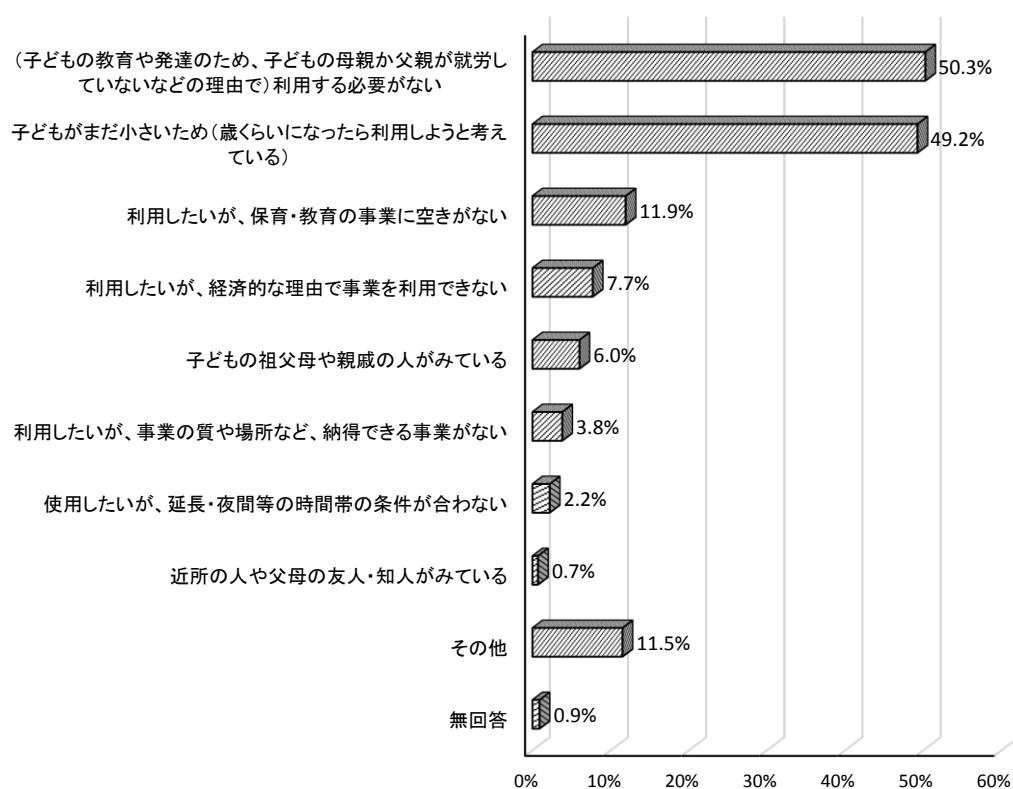
事業を利用している利用は、「子どもの教育や発達のため」が65.1%で最も多く、次いで、「子育て(教育を含む)をしている方が現在就労している」が50.9%でした。(問15-4)

事業を利用していない理由は、「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が50.3%で最も多く、「子どもがまだ小さいため(0歳くらいになったら利用しようと考えている)」が49.2%、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」が11.9%でした。(問15-5)

■ 平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由



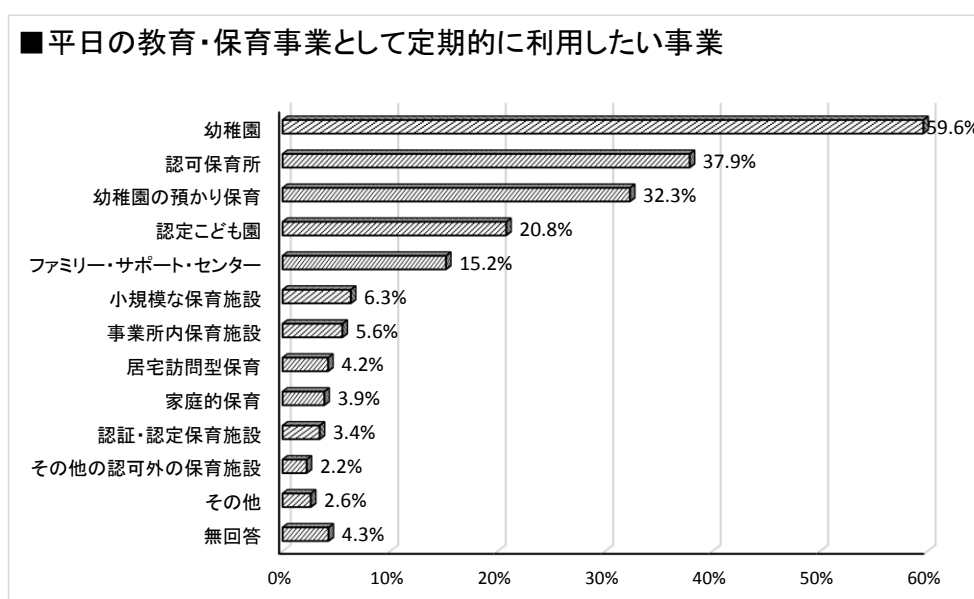
■ 平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由



6) 教育・保育事業別の利用意向

「幼稚園」が59.6%で最も多く、次いで、「認可保育所」が37.9%、以下、「幼稚園の預かり保育」32.3%、「認定こども園」20.8%と続きます。

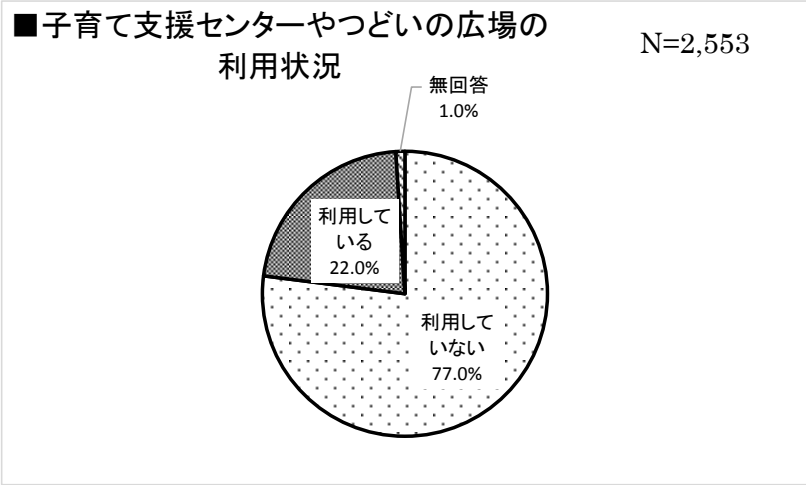
およそ6割の方が幼稚園を、4割弱の方が認可保育所を、定期的にご利用したいと思っていることがわかります。居住地域別に定期的にご利用したい事業をみると、「腰越地区」では「幼稚園」が63.5%、「深沢地区」では「認定こども園」が26.0%、「大船地区」では「認可保育所」が42.2%と、他地区に比べ比較的多くなっていることがわかります。(問16)



5 地域の子育て支援事業の利用について

1) 子育て支援センターやつどいの広場の利用状況

子育て支援センターやつどいの広場の利用状況は、「利用していない」が77.0%、「利用している」が22.0%となっています。1週当たりの利用回数は、「1回」が15.5%で最も多く、次いで、「2回」が7.3%、以下、「3回」3.9%、「4回」1.2%となっています。1ヶ月当たりの利用回数は、「1回」が34.6%で最も多く、次いで、「2回」が19.1%、以下、「3回」が9.4%、「4回」が3.2%でした。(問17)

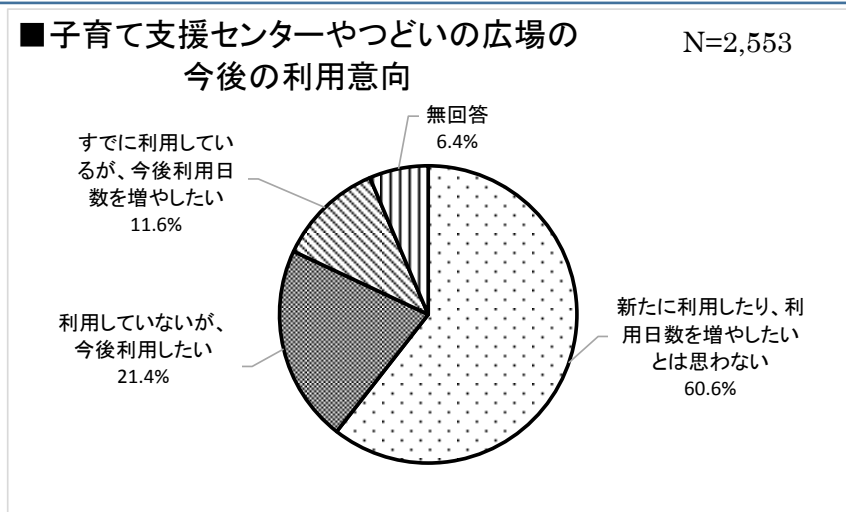


2) 子育て支援センターやつどいの広場の利用意向

子育て支援センターやつどいの広場の利用意向は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が60.6%で最も多く、「利用していないが、今後利用したい」が21.4%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が11.6%で続きます。

「利用していないが、今後利用したい」と回答した方に希望利用回数を聞いたところ、1週当たり「1回」が最も多く26.1%でした。「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した方に希望利用回数を聞いたところ、1週当たり「1回」が最も多く27.4%でした。

「子育て支援センター」や「つどいの広場」をすでに利用していて、利用回数を増やしたいと回答した方の、1ヶ月当たりの希望利用回数は、「2回」が最も多く17.2%でした。(問18)



3) 子育て支援事業の利用状況及び利用意向

子育て支援事業の認知度については、「市発行の子育て支援情報誌」の認知度が89.9%で最も高く、その他、「両親学級」が83.1%、「乳幼児健康診断」が82.5%とそれぞれ80%を超えています。

「教育センター相談室」、「こどもと家庭の相談室」、「かまくら子育てメディアスポットホームページ」は、それぞれ知らない方が半数を超えていました。

子育て支援事業の利用状況については、「市発行の子育て支援情報誌」を利用していると回答した方が最も多く76.2%、次いで、「育児教室」が49.5%、「両親学級」が47.5%となっています。

子育て支援事業の今後の利用意向については、「市発行の子育て支援情報誌」を利用したいと回答した方が最も多く71.7%、次いで、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」が57.1%、「かまくら子育てメディアスポットホームページ」が56.8%、「かまくら子育てメディアスポット」が52.2%の順となっています。
(問 19)

◎子育て支援事業の利用状況

(「これまでに利用したことがあるか」に対する回答)

事業名	全体	はい	いいえ	無回答
①両親学級	2,553	1,212	1,179	162
	100.0	47.5	46.2	6.3
②育児教室	2,553	1,264	1,119	170
	100.0	49.5	43.8	6.7
③乳幼児健康相談	2,553	1,155	1,230	168
	100.0	45.2	48.2	6.6
④教育センター相談室	2,553	94	2,188	271
	100.0	3.7	85.7	10.6
⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放	2,553	1,151	1,215	187
	100.0	45.1	47.6	7.3
⑥こどもと家庭の相談室	2,553	113	2,141	299
	100.0	4.4	83.9	11.7
⑦市発行の子育て支援情報誌	2,553	1,946	442	165
	100.0	76.2	17.3	6.5
⑧かまくら子育てメディアスポット	2,553	634	1,706	213
	100.0	24.8	66.8	8.3
⑨かまくら子育てメディアスポットホームページ	2,553	695	1,644	214
	100.0	27.2	64.4	8.4

上段：回答数
下段：回答率

◎子育て支援事業の今後の利用意向

(「利用したいか」に対する回答)

事業名	全体	はい	いいえ	無回答
①両親学級	2,553	635	1,523	395
	100.0	24.9	59.7	15.5
②育児教室	2,553	985	1,193	375
	100.0	38.6	46.7	14.7
③乳幼児健康相談	2,553	923	1,270	360
	100.0	36.2	49.7	14.1
④教育センター相談室	2,553	802	1,367	384
	100.0	31.4	53.5	15.0
⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放	2,553	1,458	776	319
	100.0	57.1	30.4	12.5
⑥こどもと家庭の相談室	2,553	840	1,322	391
	100.0	32.9	51.8	15.3
⑦市発行の子育て支援情報誌	2,553	1,831	403	319
	100.0	71.7	15.8	12.5
⑧かまくら子育てメディアスポット	2,553	1,332	910	311
	100.0	52.2	35.6	12.2
⑨かまくら子育てメディアスポットホームページ	2,553	1,451	793	309
	100.0	56.8	31.1	12.1

上段：回答数

下段：回答率

6 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用について

1) 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向

土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向は、「利用する必要はない」が71.2%で最も多く、「月に1～2回は利用したい」が21.0%、「ほぼ毎週利用したい」が6.0%で続きます。利用希望者の8割が、月に1～2回の利用で足りるとしています。

利用希望開始時間は、「9時」が最も多く45.4%、利用希望終了時間は、「17時台」が最も多く25.2%でした。(問20(1))

2) 日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向は、「利用する必要はない」が82.2%で最も多く、「月に1～2回は利用したい」が13.7%、「ほぼ毎週利用したい」が1.7%で続きます。利用者の約9割が月に1～2回で足りるとしています。

利用希望開始時間は、「9時」が最も多く40.9%、利用希望終了時間は、「17時台」が最も多く27.4%でした。(問20(2))

3) 毎週ではなく、たまに利用したい理由

たまに利用したい理由としては、「月に数回仕事が入るため」が51.8%で最も多く、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が39.1%、「息抜きのため」が35.4%、「その他」が16.4%で続きます。(問20-1)

4) 長期休暇期間中の教育・保育事業の利用意向

長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用意向は、「休みの期間中、週に数日利用したい」が54.1%で最も多く、「利用する必要はない」が39.0%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が5.0%で続きます。

利用希望開始時間は、「9時」が最も多く72.8%、利用希望終了時間は、「15時台」が最も多く29.0%でした。

利用の目的は、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が56.6%で最も多く、「息抜きのため」が52.5%、「週に数回仕事が入るため」が26.5%でした。(問21)

7 お子さんの病気の際の対応について

1) この1年間に病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験の有無

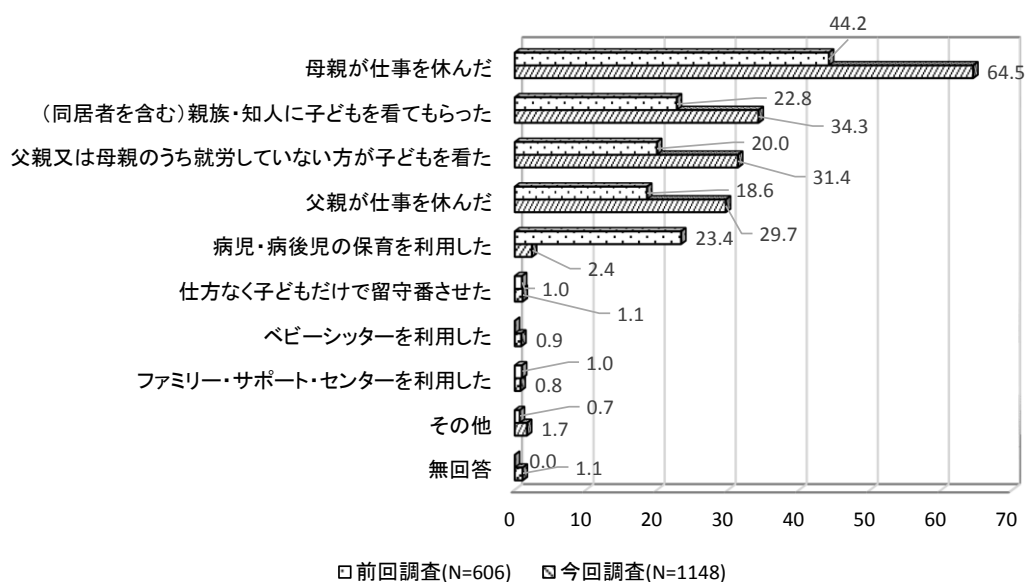
この1年間に病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験については、「あった」が75.3%、「なかった」が20.6%となっています。(問22)

2) この1年間に行った対処方法

この1年間に行った対処方法としては、「母親が仕事を休んだ」が64.5%で最も多く、「(同居者を含む)親族・知人に子どもを看てもらった」が34.3%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもを看た」が31.4%、「父親が仕事を休んだ」が29.7%で続きます。

対処方法を、前回調査(平成21年鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査)と比較すると、「母親が仕事を休んだ」という回答が44.2%から64.5%に急増しています。一方、「病児・病後児の保育を利用した」という回答は、23.4%から2.4%に激減しています。(問22-1)

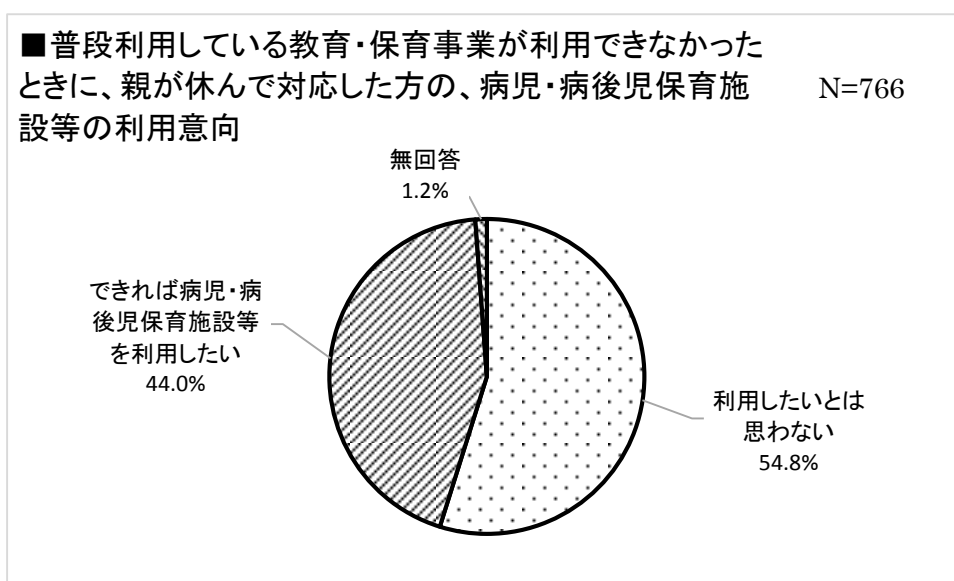
■ 病気やケガで通常の事業が利用できなかったときの対処方法
(前回調査との比較)



3) 病児・病後児のための事業の利用意向

病児・病後児のための事業の利用意向は、「利用したいとは思わない」が54.8%、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が44.0%となっています。4割を超える方が利用を希望しています。

利用希望日数は、「10～14日」が20.2%で最も多く、次いで、「5日」が19.6%、以下、「3日」18.1%、「2日」9.2%と続きます。(問 22-2)



4) 病児・病後児保育を利用したくない理由

病児・病後児保育を利用したくない理由としては、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が55.2%で最も多く、「親が仕事を休んで対応する」が51.2%、「その他」が25.2%、「地域の事業の利便性が良くない」が23.1%で続きます。

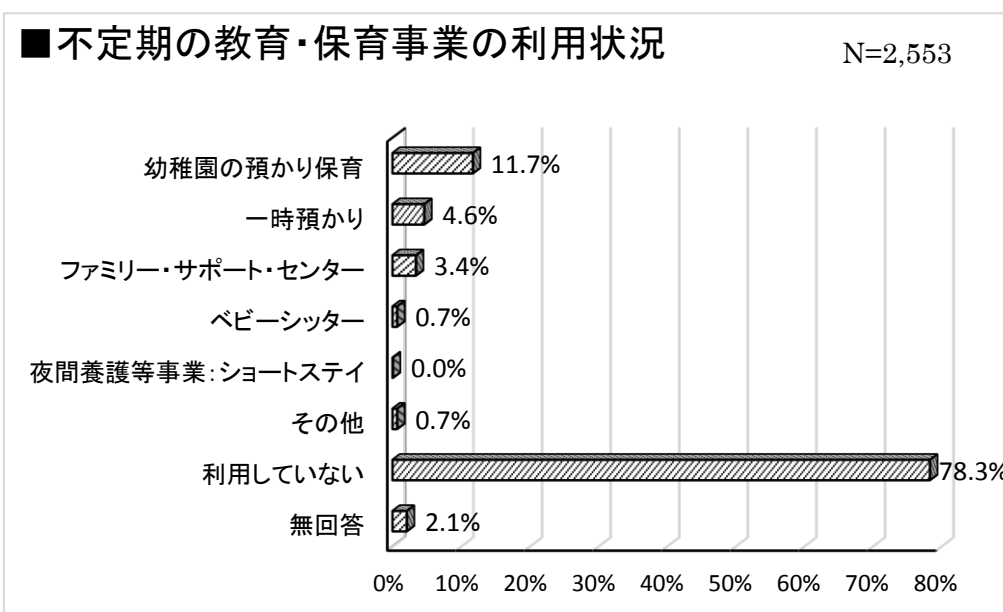
「その他」の具体的記述では、「子どもが病気の時そばにいたい」、「母親は就労していないので看ることができる」、「祖父母に看ってもらう」、「手続きが面倒」等の意見が多く寄せられました。(問 22-4)

8 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

1) 私用、親の通院、不特定の就労等の目的での不特定の事業利用の有無

不特定の教育・保育事業を利用している方は合わせて 19.6%で、利用している事業内容を見ると、「幼稚園の預かり保育」が 11.7%、「一時預かり」が 4.6%、「ファミリー・サポート・センター」が 3.4%で続きます。

利用している事業別に利用日数を比較すると、「幼稚園の預かり保育」では、「10～14日」が最も多く、「一時預かり」と「ファミリー・サポート・センター」では、「20日以上」が最も多くなっています。(問 23)



◎教育・保育事業からみた不特定の利用日数

設問	全体	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7～9日	10～14日	15～19日	20日以上	無回答
一時預かり	117	14	14	14	-	10	4	3	17	5	28	8
	100.0	12.0	12.0	12.0	-	8.5	3.4	2.6	14.5	4.3	23.9	6.8
幼稚園の預かり保育	300	15	27	36	6	47	5	8	78	10	58	10
	100.0	5.0	9.0	12.0	2.0	15.7	1.7	2.7	26.0	3.3	19.3	3.3
ファミリー・サポート・センター	87	13	8	10	5	11	-	2	12	2	21	3
	100.0	14.9	9.2	11.5	5.7	12.6	-	2.3	13.8	2.3	24.1	3.4
夜間養護等事業: ショートステイ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
ベビーシッター	17	4	3	1	-	1	1	-	2	-	5	-
	100.0	23.5	17.6	5.9	-	5.9	5.9	-	11.8	-	29.4	-
その他	17	1	1	3	-	5	-	1	2	1	2	1
	100.0	5.9	5.9	17.6	-	29.4	-	5.9	11.8	5.9	11.8	5.9

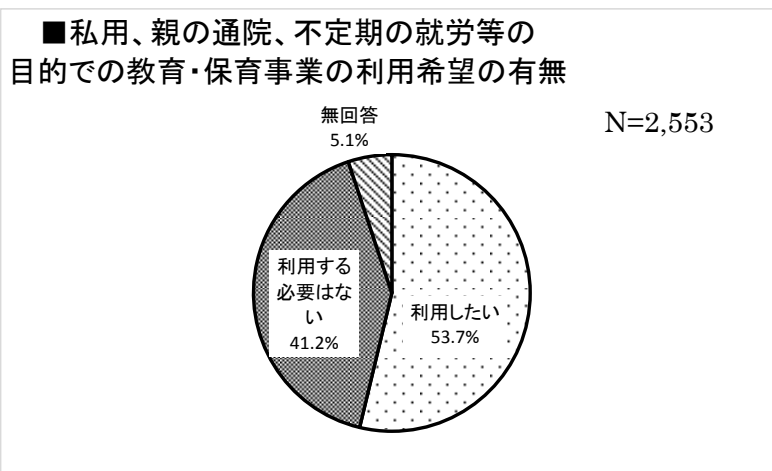
上段: 回答数
下段: 回答率

2) 不定期の教育・保育事業を利用していない理由

利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が69.4%で最も多く、次いで、「利用料がかかる・高い」が21.3%、以下、「事業の利用方法がわからない」14.6%、「その他」11.4%となっています。(問 23-1)

3) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的での事業の利用意向

私用、親の通院、不定期の就労等の目的での事業の利用意向は、「利用したい」が53.7%、「利用する必要はない」が41.2%となっています。利用目的については、「私用、リフレッシュ目的」が68.7%で最も多く、次いで、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が66.3%、以下、「不定期の就労」24.3%、「その他」6.3%となっています。不定期な理由による、教育・保育事業の1年間の必要な利用日数は、「10～14日」が最も多く20.7%でした。(問 24)



4) この1年間に、保護者の用事により、子どもを泊まりがけで保護者以外にみてもらったことの有無

この1年間に、保護者の用事により、子どもを泊まりがけで保護者以外にみてもらったことがあったかについては、「なかった」が74.1%、「あった」が20.0%となっています。

子どもを保護者以外の方にみてもらったことがあった場合の、この1年間の対処方法としては、「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」が最も多く78.7%でした。(問 25)

9 お子さんの小学校就学後の放課後の過ごし方

1) 子どもが小学校低学年の時の放課後の過ごさせ方

希望する小学校低学年時の放課後の過ごさせ方は、「自宅」が62.6%で最も多く、「習い事」が62.1%、「子どもの家」が31.6%、「その他（公民館、公園など）」が24.1%で続きます。

放課後の子どもの過ごさせ方から週当たりの利用希望日数をみると、「自宅」と「習い事」では「2日」が最も多く、「祖父母宅や友人・知人宅」と「放課後子ども教室」では、「1日」が最も多くなっています。

一方、「子どもの家」は「5日」が最も多くなっています。「子どもの家」を選択した方の、利用希望時間帯は、「18時台」までが最も多く40.9%でした。

2) 子どもが小学校高学年の時の放課後の過ごさせ方

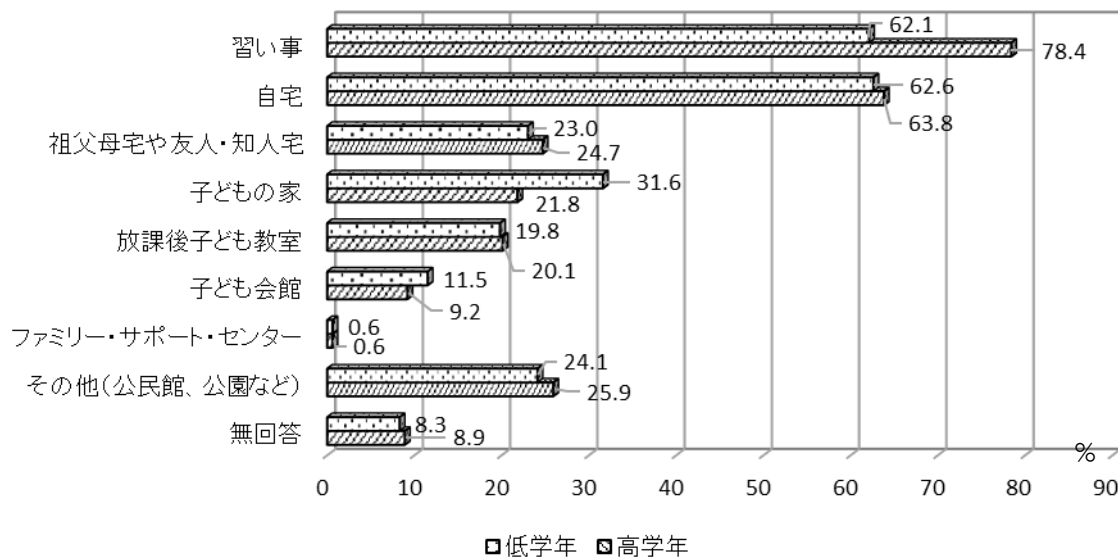
希望する小学校高学年時の放課後の過ごさせ方は、「習い事」が78.4%で最も多く、「自宅」が63.8%、「その他（公民館、公園など）」が25.9%、「祖父母宅や友人・知人宅」が24.7%で続きます。

子どもの放課後の過ごさせ方から、希望日数をみると、「習い事」では、「2日」という回答が36.3%と最も多くなっています。「自宅」と「祖父母宅や友人・知人宅」、「放課後子ども教室」では、「1日」が、「子どもの家」では、「5日」が、それぞれ最も多くなっています。

「子どもの家」を選択した方の、利用希望時間帯は、「17時台」までが最も多く31.6%でした。

■放課後の過ごしませ方(低学年・高学年比較)

N=348



3) 子どもの家(放課後児童クラブ(学童保育))の利用意向

土曜日の利用意向は、「利用する必要はない」が55.8%で最も多く、「低学年(1~3年生)の間は利用したい」が20.8%、「高学年(4~6年生)になっても利用したい」が15.8%でした。利用希望開始時間は、「9時」が最も多く47.7%、利用希望終了時間は、「18時台」が最も多く36.4%でした。

日曜日・祝日の利用意向は、「利用する必要はない」が74.2%で最も多く、「低学年(1~3年生)の間は利用したい」が9.2%、「高学年(4~6年生)になっても利用したい」が9.2%でした。利用希望開始時間は、「9時」が最も多く50.0%、利用希望終了時間は、「17時台」が最も多く40.9%でした。

長期休暇中の子どもの家の利用意向は、「高学年(4~6年生)になっても利用したい」が50.0%で最も多く、以下、「低学年(1~3年生)の間は利用したい」が39.2%、「利用する必要はない」が9.2%でした。利用希望開始時刻は、「9時」が最も多く43.0%、利用希望終了時間は、「18時台」が最も多く35.5%でした。(問28)

10 育休や短時間勤務制度など、職場の両立支援制度について

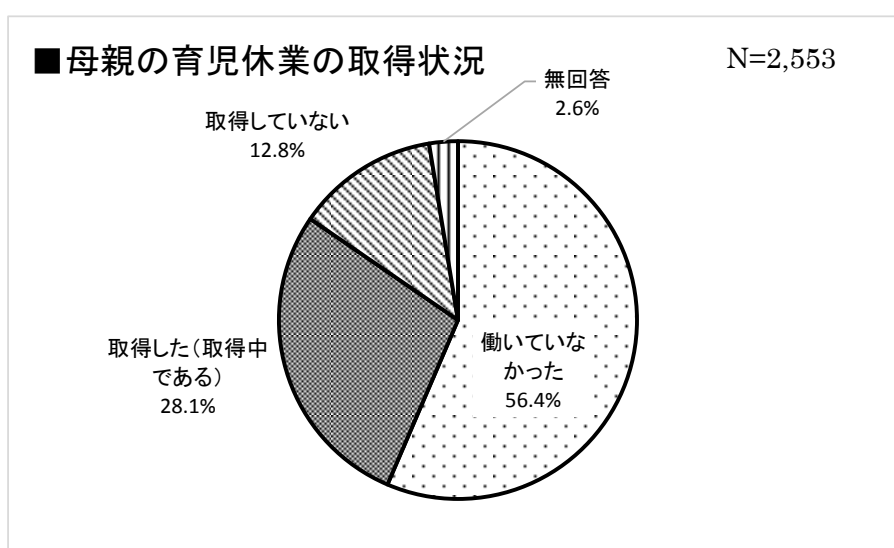
1) 育児休業の取得状況

母親では、「働いていなかった」が56.4%で最も多く、「取得した（取得中である）」が28.1%、「取得していない」が12.8%で続きます。

育児休業を取得しなかった理由としては、「子育てや家事に専念するため退職した」が38.1%で最も多く、次いで、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が18.6%、以下、「仕事が忙しかった」が16.2%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が14.3%と続きます。

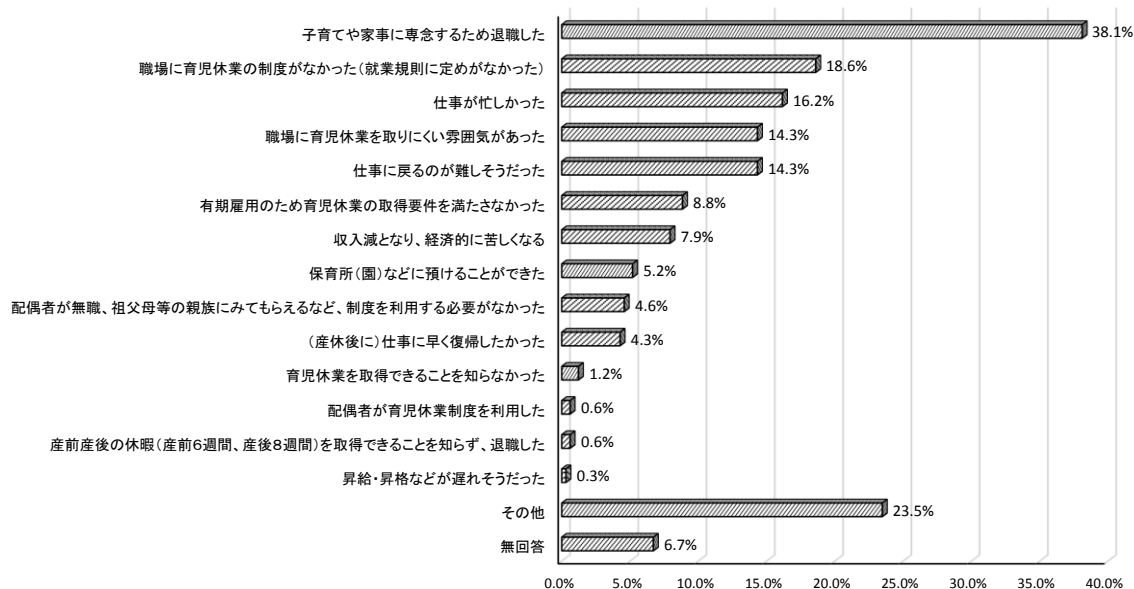
父親では、「取得していない」が85.7%で最も多く、「取得した（取得中である）」が3.4%、「働いていなかった」が1.1%で続きます。

育児休業を取得しなかった理由としては、「仕事が忙しかった」が44.1%で最も多く、次いで、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が36.9%でした。（問30）



■ 育児休業を取得していない理由(母親)

N=328



2) 育児休業取得後の職場への復帰状況

母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が70.2%、父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が79.5%となっています。(問 30-2)

3) 復帰したタイミングについて

母親では、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が62.9%、「それ以外だった」が36.3%となっています。6割を超える母親が、年度初めの保育所の入所に合わせて職場復帰をしていることがわかります。

父親では、「それ以外だった」が84.3%、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が8.6%となっています。8割を超える父親が、保育所の入所に合わせたタイミングではない時期に職場復帰していることがわかります。(問 30-3)

4) 実際の復帰時の子どもの年齢

母親では、実際の復帰時期は、「0歳6か月～0歳11か月」が35.7%で最も多く、次いで、「1歳～1歳5か月」が34.1%でした。希望する復帰時期は、「1歳～1歳5か月」が35.1%で最も多く、「1歳6か月～1歳11か月」が19.0%、「3歳～3歳5か月」が10.5%でした。

父親では、実際の復帰時期は「0歳～0歳5か月」が最も多く58.6%、希望する復帰時期は、「0歳～0歳5か月」が最も多く34.3%でした。(問30-4)

5) 希望の時期に復帰しなかった理由

母親が希望より早い時期に復帰した理由としては、「希望する保育所に入るため」が56.4%で最も多く、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が23.5%、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が20.8%でした。

母親が希望より遅く復帰した理由としては、「希望する保育所に入れなかったため」が70.8%で最も多く、「その他」が8.3%、「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」が6.3%、「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」が6.3%で続きます。(問30-6)

6) 復帰時における短時間勤務制度利用の有無

母親の短時間勤務制度の利用については、「利用した」が56.0%で最も多く、「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が23.6%、「利用する必要がなかった」が16.3%で続きます。利用しなかった理由としては、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が52.9%でした。また、8割以上の方が、子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得したいとしています。

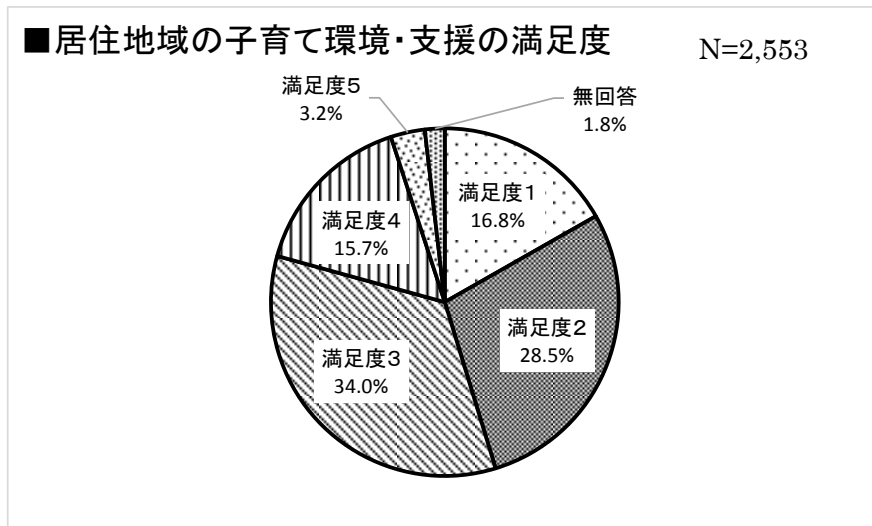
父親の短期間勤務制度の利用については、「利用する必要がなかった」が最も多く70.0%でした。利用しなかった理由としては、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が66.7%でした。(問30-7)

1.1 子育ての考え方など

1) 地域別の子育ての環境や支援への満足度

居住地における子育ての環境や支援への満足度について、5段階評価（最も満足度が高い場合は5、最も満足度が低い場合は1）でうかがったところ、「満足度3」が34.0%で最も多く、次いで、「満足度2」が28.5%、以下、「満足度1」16.8%、「満足度4」15.7%となっています。

居住地別に、子育ての環境や支援への満足度を比較すると、「鎌倉地区」で「満足度1」または「満足度2」を選択した（満足度が低い）方の割合が合わせて53.7%と比較的高くなっています。（問31）

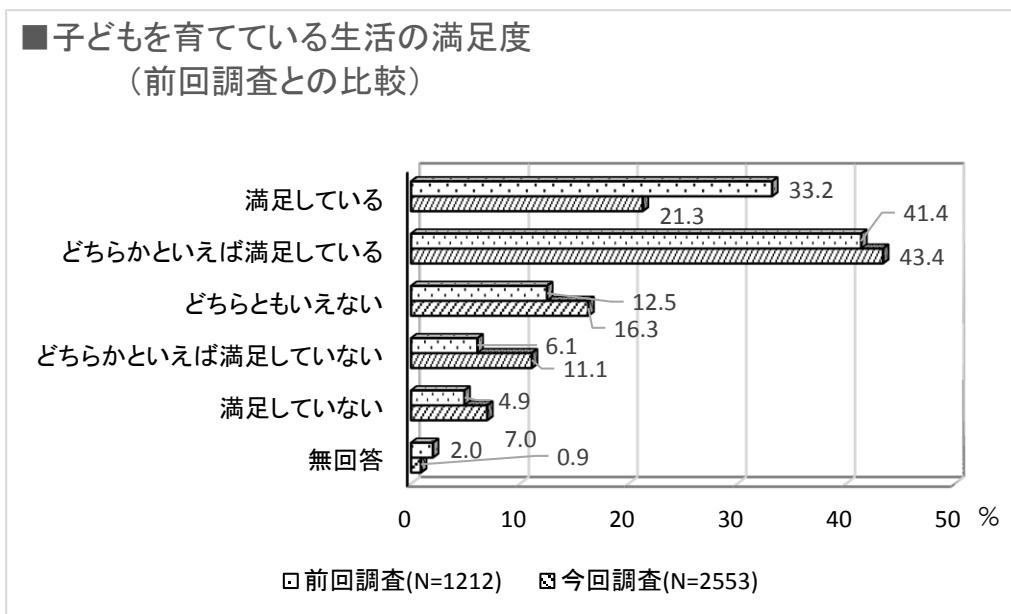


2) 子どもを育てている現在の生活に満足しているか

現在の生活の満足度は、「どちらかといえば満足している」が43.4%で最も多く、「満足している」が21.3%、「どちらともいえない」が16.3%、「どちらかといえば満足していない」が11.1%で続きます。また、回答としてその選択肢を選んだ理由の記述内容をみると、「公園」、「仕事」、「一時預かり」等についての記述が多くなっていました。

子どもを育てている現在の生活への満足度を、前回調査と比較すると、「満足している」と「どちらかといえば満足している」との合計は、74.6%から64.7%へと減少しています。特に、「満足している」と回答している方の割合が33.2%から21.3%へ大きく減少しているのが目立ちます。

一方、「満足していない」「どちらかといえば満足していない」との合計は、11.0%から18.1%へと増加しています。（問32）



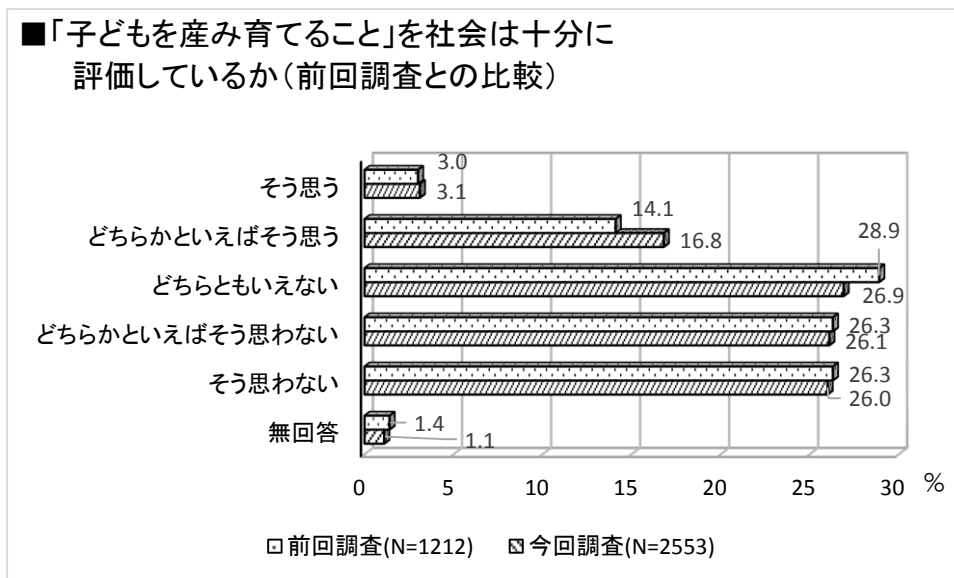
※前回調査データは、「鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査報告書」（平成 21 年）より。

3) 「子どもを産み育てること」今の社会は十分に評価しているか

「どちらともいえない」が 26.9%で最も多く、「どちらかといえばそう思わない」が 26.1%、「そう思わない」が 26.0%、「どちらかといえばそう思う」が 16.8%で続きます。

前回調査（平成 21 年鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査）と比較すると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した方は、合わせて 17.1%から 19.9%に増加しています。

一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した方は、ほぼ横ばいで変化はありませんでした。



※前回調査データは、「鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査報告書」(平成21年)より。

4) 鎌倉市の子育て支援策は充実していると思うか

鎌倉市の子育て支援策は充実していると思うかがあったところ、「どちらともいえない」が25.3%で最も多く、次いで、「どちらかといえばそう思う」が23.9%、以下、「そう思わない」が22.5%、「どちらかといえばそう思わない」が21.9%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」とを合わせて28.2%と、3割近くの方が肯定的な意見を持っています。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」とを合わせて44.4%と、半数近くの方が否定的な意見を持っています。

回答の選択肢を選んだ理由の自由記述を、キーワードで分類したところ、『保育園』、『小児医療費』、『公園』、『子育て相談』に関する記述が多くみられました。

5) 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関するご意見(ご意見)

教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関する自由記述は 1296 件寄せられました。それらをテーマごとに類型化したところ、「公園」に関するものが最も多く 22.9%、次いで、「保育園」に関するものが 18.1%、以下、「環境」に関するものが 13.8、「幼稚園」に関するものが 10.3%、「道路の整備等」に関するものが 10.0%、「学童保育」に関するものが 7.8%の順となっています。（複数の内容が含まれているものは、重複して集計しています。）

キーワード	集計値	構成比 (%)
全体	1,296	100.0
公園	297	22.9
保育園	234	18.1
環境	179	13.8
幼稚園	133	10.3
一時預かり	130	10.0
道路	129	10.0
学童保育	101	7.8
遊び場	28	2.2
待機児童	13	1.0
病児保育	12	0.9
子ども園	9	0.7
その他	502	38.7

◎多く寄せられた意見(抜粋)

◎「公園」に関する意見 297 件

- ・公園をもっと増やしてほしい。
- ・子どもが遊べる遊具のある公園がほしい。
- ・遊具が老朽化したり、汚かったりで、子どもを安心して遊ばせられない。
- ・公園を整備して、もっときれいにしてほしい。
- ・水遊びができる公園がほしい。
- ・駐車場の大きな公園がほしい。
- ・子どもがスポーツもできる広い公園がほしい。

◎「保育園」に関する意見 234 件

- ・保育園の空きがなくて働けない。
- ・保育園を増やしてほしい
- ・預けられる時間を延ばしてほしい。
- ・下の子の妊娠・出産時、上の子を退園させないでほしい。

◎「環境」に関する意見 179 件

- ・子育てしやすい環境にしてほしい。
- ・緑は多いが、気持ちよく生活できるよう整備してほしい。
- ・観光地としてより、住民の暮らしを先に考えてほしい。

◎「幼稚園」に関する意見 133 件

- ・助成金や補助金を増やしてほしい。
- ・質の向上を求めます。
- ・公立の幼稚園をつくってほしい。

◎「子どもを預けること(一時預かりなど)」に関する意見 130

- ・病気や急な用事の時、預ける場所が必要。
- ・一時保育をやっている場所を増やしてほしい。
- ・小学生を預けられる場所があったらいい。

◎「道路」に関する意見 129 件

- ・狭い道路が多く、子どもと安心して歩けない。
- ・ベビーカーを押して歩ける道路にしてほしい。
- ・道路を整備してほしい。

◎「学童保育」に関する意見 101 件

- ・小学校の空き教室などで学童保育を行ってほしい。
- ・長期休暇中の開始時間を早めてほしい。
- ・定員を増やしてほしい。
- ・障害児の利用も可能にしてほしい。

◎「遊び場」に関する意見 28 件

- ・小さい子が安心して遊ぶことができる場所がほしい。
- ・小学校のグラウンド開放はありがたい。
- ・室内で遊べる場所がほしい。

- 休日に遊べる場所がほしい。

◎「待機児童」に関する意見 13件

- 待機児童を解消してほしい。
- 入園資格の審査をもっと厳正にしてほしい。
- 保育園の待機児童だけでなく、小学校の学童の待機児童のことも考えてほしい。

◎「病児保育」に関する意見 12件

- 病児保育を充実させてほしい。
- もっと利用しやすいシステムにしてほしい。

◎「子ども園」に関する意見 9件

- 子ども園をもっと増やしてほしい。
- 幼稚園と保育園の保護者間にギャップを感じる。